



# 第 321 号

2003年(平成15年)

6月16日

発行 明治大学  
編集 明治大学広報部  
TEL 03(3296)4083  
E-mail:  
koho@mics.meiji.ac.jp  
東京都千代田区神田駿  
河台1-1(〒101-8301)

## 第8回明治大学学長杯 留学生日本語スピーチコンテスト 要領等決まる(11月15日開催)

明治大学では毎年外国人留学生による日本語スピーチコンテストを開催しています。これは本学の留学生が体験したこと、また日頃考えていることや感じていることなどを日本語で発表してもらい、日本語力の向上に役立て、聴衆に深め合う機会となることを目的として開催し、今年で8回目を迎えます。



《留学生出場者と学生コーディネーター》同時募集のお知らせ  
コンテストに参加する留学生を募集します。同時に、日本人学生の皆さんから留学生がスピーチの準備をするためのお手伝いをする日本語アドバイザーとして協力してくださる方、またこのコンテストを開催するにあたり、その準備・運営に携わっていただく学生の運営スタッフ(日本語アドバイザーのみ、あるいは運営スタッフのみでも可)として、ボランティアの学生コーディネーターを募集します。応募者の受付開始は6月6日(金)です(詳細は、国際交流センター掲示板をご覧ください)。質問などは、国際交流センター事務室まで気軽にお問い合わせ下さい。

《日本語アドバイザーの仕事》  
普段は日本語で行われる授業に十分に溶け込み、上手に日本語を操るようになってきている留学生の皆さんも、いざ日本語でのスピーチとなると細かい部分で不安が残ります。

そこで、日本人学生の皆さんに出場する留学生のスピーチ準備のアドバイザーを引き受けていただき、参加する留学生1人につき、2〜3人がチームとなって、原稿

の作成段階からお手伝いをするようになります。例年、その援助を通して、留学生と日本人学生との交流も著しく深まっています。  
(国際交流センター事務室)

### 第8回明治大学学長杯留学生 日本語スピーチコンテスト

- ▽日時 11月15日(土) 13時
- ▽場所 リバティタワー2F 1021教室
- ▽テーマ 自由(ただし伝道・宣伝は不可)
- ▽受付期間 6月6日(金)〜28日(土)

▽受付場所 国際交流センター事務室(駿河台)・和泉分室・生田分室  
\*各々、所定の申し込み用紙に記入してください。

- ▽出場者予定人数 10〜15名程度
- ▽発表時間 1人5分以内(1600字程度の内容)
- ▽表彰 学長賞、国際交流センター所長賞、連合父母会々長賞、多文化賞ほか。入賞者以外の全員に参加賞
- ▽問い合わせ 国際交流センター事務室(駿河台校舎研究棟3F)  
☎03-3296-4144

### 学生・教職員の皆さんへ

2003年5月  
学 長

#### SARS(重症急性呼吸器症候群)への対応について

このことについては、先般、SARS感染地域への不要不急の渡航を自粛するよう文書等で要請しましたが、今後のSARS感染防止対策を下記のとおり決定しましたのでお知らせします。なお、SARSへの対応は予断を許さない状況であり、状況の変化に対応した措置を講じますのでご協力をお願いします。

記

- 感染地域から帰国した学生(留学生を含む)及び教職員について
  - 帰国後は、ウイルスの潜伏期間に相当する10日間程度の間、自宅等に待機して、なるべく他人との接触を避け、授業、ゼミ等の出席又は実施等についての自粛をお願いします。
  - 発熱・せき等特定の症状がある場合には、自宅等に待機し、他人との接触を避け、直接来校せず、各校舎診療所へ電話で連絡し、医師の指示に従うか、又は保健所、指定医療機関に相談するようお願いします。
- 感染地域から帰国した家族等と同居する場合について  
SARS感染地域から帰国した家族・友人と起居を共にする場合も、10日間の自宅待機をお願いします。この場合も各校舎診療所へ電話で必ず連絡してください。
- 感染が疑われる場合について  
感染地域からの帰国者、来訪者又はSARSの症例に接したことがある学生・教職員で発熱・せき等特定の症状がある場合には、自宅等に待機し、他人との接触を避け、直接来校せず、各校舎診療所へ電話で連絡し、医師の指示に従うか、又は保健所、指定医療機関に相談するようお願いします。
- 感染地域からの研究者・留学生等の受入れについて  
(1)外国人教師・研究者・留学生等の受入れを予定している場合は、受入時期の延期又は計画の中止を要請してください。(2)やむを得ず受入れる場合は、入国後、上記の「3 感染が疑われる場合について」に準じて対処されるよう要請してください。以上

## 点

新学期が始まり2ヶ月。学生諸君は今頃レポート作成やゼミのレジュメ作成に追われている頃だろうと思う。筆者が大学に入学した十数年前は、レポート作成は原稿用紙に万年筆がまだ普通であったが、今ではワープロで作成した原稿を電子メールで提出するのがごく当たり前の光景となった▼現代人にとって、文字を書くことは、ペンを持って紙に向かうことではなく、パソコンのキーボードを打つことを意味するようになった。「手書き」というのは、今や非日常的な行為であるとも言えよう▼学生諸君が今どきあえて「手書き」するものと言えば、就職やアルバイトのための履歴書と、恋人に送るラブレターと、大学の試験答案くらいだろうか▼こういったものをわざわざ「手書き」しなければならない理由は何だろうか。筆者の考えるところでは、筆跡が書き手の性格を語るからであり、また「手書き」することが書き手の人格を懸けた行為であることを意味するからであろう。そうであるからこそ、乱暴な筆跡だったり、誤字脱字だらけだったりすると、「この人には仕事を任せられないな」とか「あの人はお付き合いしたくない」とか「この学生は勉強していない」などと推定されてしまうことになる▼7月には前期末試験があります。試験答案は丁寧な字で。更にはきたらペン書きにしてください。履歴書やラブレターを鉛筆書きで殴り書きにしたら、すぐに相手に振られてしまうように、試験でも同じことが……。

### 主な内容紹介

- 明治大学法科大学院進学案内……………(2面)
- 2003年の就職動向……………(3面)
- 2002年度決算と2003年度予算……………(4・5・6面)
- 大学史の散歩道……………(7面)
- 経営学部IBPスカラーシップアワード開催……………(8面)

# 明治大学法科大学院進学案内

※設置計画のため、今後変更される場合がございますので、注意してください。

## 1、未修者・既修者割合

明治大学法科大学院(以下、本学)では200名の入学定員を、未修者100名・既修者100名とします。ただし、この割合はあくまでも目安であり、選考結果で適宜増減します。また、他学部学生及び社会人の受け入れ人数は60名前後を考えています。

## 2、入試方式

未修者と既修者については、出願の時点から未修者コースと既修者コースを設け、異なる入学試験方式を行うこと(いわゆる別枠方式)を行います。

## 3、適性試験の利用

適性試験を必ず受験してください。法務研究財団主催(8月3日実施)及び大学入試センター主催(8月31日実施)のいずれでも結構です。いずれか一方の成績を添付してください。

## 4、既修者コース(2年コース)希望者へ

法学検定試験委員会が実施する法学既修者試験(11月16日実施)が2年間で修了することが可能

## 5、本法科大学院独自の試験

未修者については、書類審査↓小論文↓面接、既修者については、書類審査↓論文試験(四科目)憲法、民法、刑法、商法) ↓面接を予定しています。

## 6、既修者への科目免除

既修者として認定した者については、1年次に配置されている憲法(統治)、憲法(人権)、民法(総則・契約)、民法(財産権)、民法(損害賠償法)、家族法、刑法、商法I・IIの合計26単位を科目免除とします。この結果、既修者は2年間で修了することが可能

## 7、本法科大学院説明会の実施

明治大学学内受験相談会実施にあわせて「法科大学院説明会」を実施します。

## 8、本学からの見学旅行

5月10日、私達留学生は富士山に行ってきました。日帰りの旅行ですが、私にとって毎年国際交流センターの見学旅行は一年中で一番楽しみな事と言えます。その上、富士山は日本のシンボルの一つなので、日本にいる間に必ず行こうと思っていたところでした。

## 9、前日、私は天気予報を調べておきました。当日は晴れて、風も柔らかく感じられます。三台のバスが私達を乗せて、富士山へと出発しました。バスは約2時間走って、ようやく五合目に着きました。残念なことに、富士山の周辺は曇りで、山全体に霧がかかっていたため、富士山の真の姿が見えなくなりました。でも私達は皆、気分上々で美味しい昼食をとりました。食事後、バスは私達を鳴沢水穴、富岳風穴、忍野八海に連れて行きました。その近くにはたくさんのお土産屋さんや並んでいます。饅頭や煎餅などの食べ物には私にとっても、決して珍しいものではありませんが、実際に作るのを見るのは初めてなので、その前で記念に写真を撮りました。機会があったらまた是非登りに行きたいと思えます。

## 初めての富士山旅行

5月10日、私達留学生は富士山に行ってきました。日帰りの旅行ですが、私にとって毎年国際交流センターの見学旅行は一年中で一番楽しみな事と言えます。その上、富士山は日本のシンボルの一つなので、日本にいる間に必ず行こうと思っていたところでした。

前日、私は天気予報を調べておきました。当日は晴れて、風も柔らかく感じられます。三台のバスが私達を乗せて、富士山へと出発しました。バスは約2時間走って、ようやく五合目に着きました。残念なことに、富士山の周辺は曇りで、山全体に霧がかかっていたため、富士山の真の姿が見えなくなりました。でも私達は皆、気分上々で美味しい昼食をとりました。食事後、バスは私達を鳴沢水穴、富岳風穴、忍野八海に連れて行きました。その近くにはたくさんのお土産屋さんや並んでいます。饅頭や煎餅などの食べ物には私にとっても、決して珍しいものではありませんが、実際に作るのを見るのは初めてなので、その前で記念に写真を撮りました。機会があったらまた是非登りに行きたいと思えます。

政経学部3年 リード・クリステン・香

## 留学生見学旅行

富士山五合目・鳴沢水穴ほか



## 富士山への見学旅行

日本一の山、富士山。その美しい姿を観るのを楽しみに5月10日の朝、私達明治の留学生は旅に出た。しかし、その日の富士山はあいにく霧に被われていてほとんど見ることができなかった。五合目に着いた時も辺りは雲ばかりで頂上が見えない上、5月だというのにまだところどころ地面には雪が残っているほどの寒さ。しかし、五合目に着くまでにバスガイドさんが教えてくださいました。富士山についてのこと、そして、日本の自然や文化が

## 相談室の窓から

山口 政信  
(相談員・法学部教授)

## 「思い」を伝える

プロセスを重視した術による、学習者主体の学習法)が活かされてきたとは考えにくい。そこに見え隠れするのは、暗黙知という高度なスポーツ性への甘えと、その反動としての統制型組織におけるティ

は、うまく伝わっているのだから。ここでも「どうして分かってくれないの」とは、お互い様ようである。その原因の一つに、身体感覚が失われた人において、思いを自分の言葉で伝えることは、聴く耳をも

た外国出身の新監督は、通訳を介して所信を表明した。日本語の監督を退くことになった人の談話記事である。プレーヤーとしての実績はともかく、チームを勝利に導くことができなかったとすれば、指導者としての能力が問われるのは必然である。代わった

表1 2002年度 業種別就職状況(学部別)

Table with columns for industry (e.g., 農林・水産・鉱業, 建設業・不動産業, 製造業, etc.) and rows for various metrics like 求人会社数, 卒業生数, 就職者数, etc. Includes a sub-table for 2003. 3. 31 現在の状況.

※上段=総数 中段=女子 下段=%
※女子は内数 %は学部ごとの就職者数に対する割合(総数のみ)
※自営=自家営業者, 継続=在学中に就職していた者
※卒業後の進路として「海外留学」「国家試験受験」「教員採用試験受験」「公務員採用試験受験」「各種学校入学」「進路不明」の者などがあるため、就職者数、自営・継続・進学数を合計しても卒業生数とは一致しません。

就職課利用時間のお知らせ

資料室、インターネット利用時間

Table showing library and internet usage hours for 文系学部 and 理工・農学部.

就職課相談受付時間

Table showing career counseling hours for 文系学部 and 理工・農学部.

※利用時間は、就職活動の時期、夏季休業期間、業務の都合により変更することがあります。ホームページまたは掲示板で確認してください。
URL:http://www.meiji.ac.jp/shushoku/top.html

2003年3月卒業生もあらゆる業界へ万遍なく進出しています。
現4年生の状況については、企業説明会が昨年より若干早く始まりましたが、内々定は、ほぼ昨年並の3月中旬頃から出始めました。
Web上で適性検査を行う企業が増加した等が挙げられます。
まだ良い感触が得られない方は就職課を大いに利用し、何かヒントを掴んでぜひ目標を達成してください。
就職事務部では「就職は挑戦である」をモットーに就職活動の支援を行っています。
表2のように3年生の後期に学部別の就職説明会を行い、個人面談会、業界研究会、内定者の体験報告会、OB・OGとの懇談会等々様々な就職支援行事を計画しています。
「将来、自分がどう社会と関わって生きていくのか」「自分の夢をどう実現させるのか」をしっかりと考えて、自分の大学生活を充実させてください。就職事務部は、皆さんの進路に関して支援を惜しみません。進路について考え始めたら、まず就職課、生田就職課へ立ち寄りください。



より充実した学生生活が大切

昨今地方銀行の大型合併、メガバンクの公的資金の注入等が新聞紙上を賑わしております。依然として経済の回復が不透明であり、また、相変わらず進まない政府主導の構造改革等見通しの見えない社会状況が続いております。この4年大卒求人倍率は1.35倍で(昨年は1.30倍)で昨年より0.05倍の若干の増でありますが、求人数は横ばいの状態です。企業は将来の中核となるべく人材を確保するための「厳選採用」の姿勢は変えておりません。表1の2002年度業種別就職状況を見ますと、金融業、商事・卸・小売業、製造業、情報サービス業で約78.6%を占めています。OGの社会での活躍が高い評価を得ていることから、2003年3月卒業生もあらゆる業界へ万遍なく進出しています。

表2

Table titled '就職支援行事概要(予定、学部現3年生・短期大学現1年生対象)'. It lists career support events for 文系学部 and 理工・農学部 from 2003 to 2004, including job fairs, seminars, and interviews.

# 2002年度決算と2003年度予算

- 1、2002年度決算
- 2、2003年度予算
- (1) 「一般会計資金収支計算書」 (第1表)
- (2) 「一般会計消費収支計算書」 (第2表)
- (3) 「貸借対照表」 (第3表)
- (4) 「一般会計資金収支予算」 (第4表)
- (5) 「一般会計消費収支予算」 (第5表)

## 2002年度決算の内容

2002年度決算について(第1表)「一般会計資金収支計算書」を中心に科目別に内容を説明します。

### 収入の部

- 1、「学生生徒等納付金収入」は、34.9億8千万円。予算比2千万円の増収となりました。(第1表)「消費収支計算書」における帰属収入に占める「学生生徒等納付金収入」の割合(学生生徒等納付金比率)は、77.7%で前年度決算に比べ1.1%増加しております。(第2表)
- 2、「手数料収入」は、27億3千万円。主な内容は、「入学試験料」の27億円です。
- 3、「寄付金収入」は、4億7千万円。予算比6億2千万円の減収となりました。この主な要因は、「創立120周年記念事業募金」が予算比5億1千万円下回ったためです。
- 4、「補助金収入」は、35億8千万円。予算比4千万円の増収となっております。主な内訳は、大学・短大に対する「経常費補

- 5、「資産運用収入」は、10億4千万円。内訳としては、「利息・配当金収入」7億8千万円。「奨学金基金引当資産」の果実4千万円。施設の貸出による「施設設備利用料収入」2億2千万円です。
- 6、「資産売却収入」の29億9千万円は、資金の効率運用のため前年度末に保有していた短期運用債券の売却収入です。
- 7、「事業収入」は、1億8千万円。内訳は、「診療所収入」、「受託事業収入」、「農場収入」です。
- 8、「雑収入」は、20億3千万円。当年度退職者に対する「私大退職金財団交付金」12億9千万円。入試要項売上代金、明大カード提携手数料、広報購読料、リパティアカデミーの受講料等の「その他の雑収入」4億8千万円及び教職員が拠出する「年金掛金収入」が2億6千万円です。
- 9、「借入金収入」は、2千万円。「研究設備補助金」追加交付額の前受分です。次期以降3年にわたり「補助金収入」に振り替わります。
- 10、「前受金収入」は、87億円。2002年度中に受け入れた2003年度新入生の「学生生徒等納付金収入」の額です。
- 11、「その他の収入」は、59億6千万円。主な内訳は、「退職給与引当資産からの繰入」6千万円、「駿河台施設計画引当資産からの繰入」38億2千万円。奨学金等の「貸付金返還金」7億2千万円。2001年度収入のうち実際の資金の受入が2002年度となった「未収入金収入」13億5千万円等です。
- 12、「資金収入調整勘定」は、10.8億円。これは、各資金収入決算額のうち、当期に実際資金の受け入れが行われない金額を「期末未収入金」及び「前期末前受金」として収入から控除するものです。
- 13、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。

### 支出の部

- 1、「人件費」は、23.6億4千万円。予算比1億9千万円の減となっております。主な要因は、教員採用数が予定を下回ったためです。
- 2、「物件費および経費」は、10.7億5千万円。予算比6億円の執行残となっております。これは、前年度に引き続いての経費の節減努力と調達努力による効果と考えられます。
- 3、「支払利息」は、2.5千万円。主に私学振興・共済事業団からの借入金に対する利息です。
- 4、「借入金返済支出」は、2.2億1千万円。私学振興・共済事業団への返済2億1千万円と前年度借入れた14号館土地購入資金の銀行借入金20億円の返済です。
- 5、「施設関係支出」は、66億1千万円。内訳は次の通りです。
  - ①「土地」は、3億1千万円。これは、駿河台10号館用地内貸地の借地権取得及び既存建物解体費。
  - ②「建物」は、16億3千万円。主な内容としては、
    - (1) 八幡山第二合宿所新築
    - (2) 生田第二校舎3号館(理工学部校舎)建替(第1期)
    - (3) 和泉第三校舎空調機設置
    - (4) 生田第二校舎2号館空調機設置
    - (5) 和泉第二校舎1・2番教室空調機設置
    - (6) 和泉校舎内書店・売店設置改修
    - (7) その他既存施設の諸改修工事
  - ③「構築物」は、3千万円。明高中校庭人工芝張替他4件の工事です。
  - ④「建設仮勘定」は、46億4

- 10、「前受金収入」は、87億円。2002年度中に受け入れた2003年度新入生の「学生生徒等納付金収入」の額です。
- 11、「その他の収入」は、59億6千万円。主な内訳は、「退職給与引当資産からの繰入」6千万円、「駿河台施設計画引当資産からの繰入」38億2千万円。奨学金等の「貸付金返還金」7億2千万円。2001年度収入のうち実際の資金の受入が2002年度となった「未収入金収入」13億5千万円等です。
- 12、「資金収入調整勘定」は、10.8億円。これは、各資金収入決算額のうち、当期に実際資金の受け入れが行われない金額を「期末未収入金」及び「前期末前受金」として収入から控除するものです。
- 13、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 14、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 15、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 16、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 17、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 18、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 19、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 20、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。

### 貸借対照表

「資金収支」と「消費収支」の決算により、2002年度末の資産・負債及び基本金の状況を表したのが「貸借対照表」(第3表)です。

- 1、「資産」の総額1,820億8千万円は、前年度比41億6千万円の増加となっております。負債の総額412億5千万円は、前年度比21億5千万円減少しています。
- 2、「その他の支出」は、51億4千万円。主な内容としては、奨学金等の「貸付金」8億5千万円。2001年度予算執行のうち、実際の資金の支払いが2002年度となった「未払金支払」40億7千万円等です。
- 3、「資金支出調整勘定」47億円は、各資金支出科目決算額のうち、当期に実際資金の受け入れが行われない金額を「期末未収入金」及び「前期末前受金」として収入から控除するものです。
- 4、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 5、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 6、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 7、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 8、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 9、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。
- 10、「前年度繰越支払資金」23.9億3千万円は、2002年度期首の現金預金の有高です。

## 2003年度予算の内容

2003年度予算について(第4表)「一般会計資金収支計算書」を中心に科目別に内容を説明します。

### 収入の部

- 1、「学生生徒等納付金収入」は、34.5億5千万円。臨時定員増
- 2、「手数料収入」は、24億8千万円。このうち「入学試験料」は24億5千万円です。2004年度入学者志願者数を、84、600人(前年度比6、2000人増)を見込んで計上しました。
- 3、「寄付金収入」は、4億2千

### 支出の部

- 1、「人件費」は、23.6億4千万円。予算比1億9千万円の減となっております。主な要因は、教員採用数が予定を下回ったためです。
- 2、「物件費および経費」は、10.7億5千万円。予算比6億円の執行残となっております。これは、前年度に引き続いての経費の節減努力と調達努力による効果と考えられます。
- 3、「支払利息」は、2.5千万円。主に私学振興・共済事業団からの借入金に対する利息です。
- 4、「借入金返済支出」は、2.2億1千万円。私学振興・共済事業団への返済2億1千万円と前年度借入れた14号館土地購入資金の銀行借入金20億円の返済です。
- 5、「施設関係支出」は、66億1千万円。内訳は次の通りです。
  - ①「土地」は、3億1千万円。これは、駿河台10号館用地内貸地の借地権取得及び既存建物解体費。
  - ②「建物」は、16億3千万円。主な内容としては、
    - (1) 八幡山第二合宿所新築
    - (2) 生田第二校舎3号館(理工学部校舎)建替(第1期)
    - (3) 和泉第三校舎空調機設置
    - (4) 生田第二校舎2号館空調機設置
    - (5) 和泉第二校舎1・2番教室空調機設置
    - (6) 和泉校舎内書店・売店設置改修
    - (7) その他既存施設の諸改修工事
  - ③「構築物」は、3千万円。明高中校庭人工芝張替他4件の工事です。
  - ④「建設仮勘定」は、46億4

10、『その他の収入』は、92億円。

9、『前受金収入』78億3千万円は、2003年度中に受け入れる2004年度新入生の「学生生徒等納付金収入」です。

8、『雑収入』は、16億3千万円。退職者に対する「私大退職金財団交付金」9億3千万円。入試要項売上代金、広報購読料、リバティアカデミー受講料、明大カード提携手数料等の「その他の雑収入」4億4千万円及び教職員が拠出する「年金掛金収入」が2億6千万円です。

7、『事業収入』は、1億3千万円。「農場収入」、「診療所収入」及び委託研究に係る「受託事業収入」等です。

6、『資産売却収入』は、30億円。前年度末に保有する短期運用債券の効率運用のための売却収入です。

5、『資産運用収入』は、8億5千万円。内訳としては、「利息・配当金収入」6億3千万円。「奨学金基金等引当資産」の果実4千万円。施設の貸出による「施設設備利用料収入」1億8千万円です。

4、『補助金収入』は、35億5千万円。主な内訳としては、大学・短大に対する「経常費補助金」30億円。「研究装置等補助金」「研究設備補助金」1億6千万円。高等学校・中学校に対する「東京都補助金」3億3千万円です。

支出の部

主な内訳は、「駿河台施設計画引当資産からの繰入」、奨学金等の「貸付金返還金」、前年度収入のうち実際の資金の受入が当期になる「未収入金収入」等です。

1、『人件費』は、2338億円。前年度予算比2億8千万円増となっています。主な要因は、教員採用増によるものです。

2、『物件費および経費』は、13億8千万円。前年度予算比4億5千万円の増となっています。2004年度に開設される新学部・新大学院へ備えた措置、奨学事業の充実などが盛り込まれています。

3、『支払利息』は、1千万円。主に私学振興・共済事業団の既借入金に対する利息です。

4、『借入金返済支出』は、7千万円。私学振興・共済事業団からの借入金の返済です。

5、『施設関係支出』142億9千万円の主な内容は、次項「2003年度予算の特徴」を参照してください。

6、『設備関係支出』は、20億4千万円。前年度予算比3億3千万円増加しています。主な要因は、和泉キャンパスの新学部開設に備えた情報・視聴覚設備整備及び教学システム再構築によるものです。

7、『資産運用支出』42億1千万円の主な内容は、資金運用のための短期運用債券購入、施設設備整備引当資産の積立、駿河台施設計画引当資産の積立、各種奨学基金の積立等です。

2003年度予算の特徴

2003年度予算の特徴について列挙してみます。

1、教育研究重点施策予算

① 新大学院等の開設に伴う教員採用計画に則した予算措置する環境整備

② 新学部・新大学院設置に関する環境整備

③ 学術フロンティア推進事業等大型研究プロジェクトへの対応

④ 情報・視聴覚設備充実に伴う関連経費の計上

⑤ 奨学金制度の充実による増額計上

⑥ 体育系サークルへの重点的支援及び育成費の計上

⑦ 国家試験重点対策費の計上

2、建設関係予算

① アカデミーコモン建設に伴う建設費の計上

② 和泉新教育棟建設(次年度以降継続)に伴う建設費の計上

③ 和泉第二研究棟増築他に伴う建設費の計上

④ 生田第二校舎3号館【理工学部校舎】建設(次年度以降継続)に伴う建設費の計上

⑤ 生田第一校舎1号館教室空調機設置

⑥ 西調布合同合宿所・卓球場水泳部合宿所建設の建設に伴う建設費の計上

⑦ 和泉校舎ケラントの整備

⑧ その他既存施設の整備・改修工事

〈第1表〉2002年度 一般会計資金収支計算書

(収入の部)			(支出の部)		
科 目	決 算 額	予算比増・減 (△)	科 目	決 算 額	予算比増・減 (△)
学生生徒等納付金収入	34,981,089	19,849	人 件 費	23,639,346	△ 189,361
手数料収入	2,730,863	129,600	物件費および経費	10,751,206	△ 598,332
寄付助金収入	465,426	△ 623,674	支 払 利 息	25,014	△ 16
補産運用収入	3,582,745	41,036	借入金返済支出	2,206,680	0
資産売却収入	1,041,181	117,376	施設関係支出	6,606,433	△ 390,894
事業収入	2,993,672	△ 6,328	設備関係支出	1,619,557	△ 91,944
借入金収入	175,908	75,908	資産運用の支出	5,241,147	△ 503,734
借入金収入	2,025,942	326,590	その他支出	5,142,968	△ 107,524
前受金の収入	22,528	22,528	資金支出調整勘定(△)	0	△ 202,043
その他収入	8,704,898	475,198	資金支出調整勘定(△)	4,722,275	△ 1,028,548
前年度繰越支金	5,964,868	178,440	次年度繰越支金	25,313,515	増 3,014,057
収入の部合計	75,823,591	△ 98,339	支出の部合計	75,823,591	△ 98,339

〈第2表〉2002年度 一般会計消費収支計算書

(消費収入の部)			(消費支出の部)		
科 目	決 算 額	予算比増・減 (△)	科 目	決 算 額	予算比増・減 (△)
学生生徒等納付金収入	34,981,089	19,849	人 件 費	23,707,686	△ 131,742
手数料収入	2,730,863	129,600	物件費および経費	14,550,188	△ 235,067
寄付助金収入	503,998	△ 625,102	支 払 利 息	25,014	△ 16
補産運用収入	3,582,745	41,036	資産処分差額	428,775	50,142
事業収入	1,041,181	117,376	徴収不能引当金等繰入額	22,464	11,464
雑収入	175,908	75,908	消費支出の部合計	38,734,127	△ 41,735
借入金収入	2,025,942	326,590			
借入金収入	2,025,942	326,590			
前受金の収入	22,528	22,528			
その他収入	8,704,898	475,198			
前年度繰越支金	5,964,868	178,440			
収入の部合計	45,041,726	85,257			
基本金組入額(△)	△ 7,006,430	減 570,005			
消費収入の部合計	38,035,296	655,262			
			(消費収支差額の部)		
			科 目	決 算 額	予算比増・減 (△)
			当年度消費支出超過額	△ 698,830	減 696,998
			消費収支差額の部合計	△ 698,830	減 696,998

〈第3表〉貸借対照表(2003年3月31日)

(資産の部)			(負債・基本金および消費収支差額の部)		
科 目	本年度末	増・減(Δ)	科 目	本年度末	増・減(Δ)
固 定 資 産	145,624,663	2,460,825	負 債	41,245,669	Δ 2,148,220
有 形 固 定 資 産	101,974,953	4,037,646	固 定 負 債	26,309,969	24,208
土 建 地 物	23,180,417	309,950	長 期 借 入 金	255,838	Δ 44,132
構 築 物	51,630,584	Δ 742,902	退 職 給 与 引 当 金	13,672,044	Δ 59,424
機 器 備 用 品	1,085,060	Δ 128,113	年 金 引 当 金	12,382,087	127,764
図 書 画 像	7,038,491	Δ 577,802	流 動 負 債	14,935,700	Δ 2,172,428
車 両	13,928,975	661,602	短 期 借 入 金	66,660	Δ 2,140,020
設 備	18,147	703	前 未 払 金	8,704,898	Δ 464,232
仮 勘 定	5,093,279	4,514,208	預 払 金	4,674,248	Δ 607,554
そ の 他 の 固 定 資 産	43,649,710	Δ 1,576,821	預 払 金	1,489,894	Δ 175,730
借 入 金	4,287	0	基 本 金	148,475,123	7,006,430
地 利 用 権	17,432	0	第 一 号 基 本 金	134,421,376	8,662,188
施 設 費 用 債 権	5,040	Δ 840	第 二 号 基 本 金	7,709,176	Δ 1,777,554
有 価 証 券	124,250	44,550	第 三 号 基 本 金	3,749,571	16,796
長 期 貸 付 金	5,525,127	18,551	第 四 号 基 本 金	2,595,000	105,000
退 職 給 与 引 当 金	13,672,026	Δ 59,443	消 費 収 支 差 額 の 部	Δ 7,642,794	Δ 698,830
年 金 引 当 金	12,382,087	Δ 127,765	翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	Δ 7,642,794	Δ 698,830
駿 河 台 施 設 計 画 引 当 金	5,709,176	Δ 2,077,554			
新 学 部 ・ 学 科 設 置 引 当 金	2,000,000	300,000			
第 3 号 基 本 金 引 当 金	3,749,571	16,796			
特 定 引 当 金	460,714	53,354			
流 動 資 産	36,453,335	1,698,555			
現 金 預 金	25,313,515	1,379,152			
短 期 貸 付 金	885,493	108,971			
未 収 入 金	1,630,762	264,535			
預 り 金	799,206	Δ 14,725			
前 払 金	46,872	Δ 1,155			
保 有 価 値 証 券	20,500	0			
有 価 証 券	7,756,987	Δ 38,223			
合 計	182,077,998	4,159,380	合 計	182,077,998	4,159,380

〈第4表〉2003年度 一般会計資金収支予算

(収入の部)			(支出の部)		
科 目	予 算 額	前年度予算比増・減(Δ)	科 目	予 算 額	前年度予算比増・減(Δ)
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	34,547,993	Δ 178,247	人 件 費	23,795,331	282,790
手 数 料 収 入	2,481,233	126,423	物 件 費 お よ び 経 費	11,375,366	448,821
寄 付 金 収 入	416,100	Δ 673,000	支 払 利 息	14,500	Δ 10,530
補 助 金 収 入	3,551,960	10,251	借 入 金 返 済 支 出	66,660	Δ 2,140,020
資 産 運 用 収 入	848,342	Δ 75,463	施 設 関 係 支 出	14,287,820	6,987,376
資 産 売 却 収 入	3,000,000	0	設 備 関 係 支 出	2,042,469	330,968
事 業 収 入	129,000	29,000	資 産 運 用 支 出	4,211,675	Δ 1,533,206
雑 収 入	1,625,982	Δ 73,370	そ の 他 の 支 出	5,615,184	173,086
前 受 金 収 入	7,827,930	Δ 401,770	予 備 費	400,000	0
そ の 他 の 収 入	9,203,597	3,644,051	資 金 支 出 調 整 勘 定 (Δ)	Δ 3,551,800	増 133,900
資 金 収 入 調 整 勘 定 (Δ)	Δ 8,878,700	減 316,470	次 年 度 繰 越 支 払 資 金	20,496,232	Δ 2,261,908
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	24,000,000	0			
収 入 の 部 合 計	78,753,437	2,724,345	支 出 の 部 合 計	78,753,437	2,724,345

〈第5表〉2003年度 一般会計消費収支予算

(消費収入の部)			(消費支出の部)		
科 目	予 算 額	前年度予算比増・減(Δ)	科 目	予 算 額	前年度予算比増・減(Δ)
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	34,547,993	Δ 178,247	人 件 費	23,462,231	132,740
手 数 料 収 入	2,481,233	126,423	物 件 費 お よ び 経 費	15,231,872	681,617
寄 付 金 収 入	476,100	Δ 653,000	支 払 利 息	14,500	Δ 10,530
補 助 金 収 入	3,551,960	10,251	資 産 処 分 差 額	176,053	Δ 202,580
資 産 運 用 収 入	848,342	Δ 75,463	徴 収 不 能 引 当 金 等 繰 入 額	11,000	0
事 業 収 入	129,000	29,000	消 費 支 出 の 部 合 計	38,895,656	601,247
雑 収 入	1,625,982	Δ 73,370			
帰 属 収 入 合 計	43,660,610	Δ 814,406	(消費収支差額の部)		
基 本 金 組 入 額 (Δ)	Δ 5,642,767	増 1,933,668	科 目	予 算 額	前年度予算比増・減(Δ)
消 費 収 入 の 部 合 計	38,017,843	1,119,262	当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	Δ 877,813	増 518,015
			消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	Δ 877,813	増 518,015

# 大学史の散歩道

52

大学史資料センター所長

渡辺 隆喜 (文学部 教授)



大学南校貢進生

## 創立者達の修学時代 貢進生と明法寮

### 貢進生と明法寮

貢進生とは、明治三(一八七〇)年七月、成立早々の維新政府が、新官僚養成のため各藩に命じ提供させた若手エリート達である。明治大学の創立者岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の三人は、ここで初めて出会い、以後一生の交際が続く。岸本は鳥取藩の、宮城は天童藩の、矢代は鯖江藩の貢進生であった。彼らは貢進生として大学南校(のち東京大学)に学び、明治五年八月新設の明法寮(司法省法学

校)に移り、ボアソナードにフランス法を学ぶ。この優等生は選ばれてパリ大学に留学するが、岸本、宮城もその留学生であった。貢進生は大藩三人、中藩二人、小藩一人のわりで、一八歳から二〇歳までの洋学知識をもつ藩内の優秀者を募集しており、ペリー来航前後に誕生し、開港の課した近代化の課題を担って成長した若者を、明治国家建設の官僚に養成するためのものであった。彼らはいずれも藩校教育をうけ、藩校の若手教師か下士官に成長しつつあった時期で、下級武士出身のため洋学知識に早くめざめる立場にあった。岸本は倒幕派軍隊の新軍隊の半隊司令官から明治二年に上京、箕作貞一郎(南校教授)の共学塾で勉強中であり、宮城は藩校養正館の句読師を経、兵制改革のため藩から派遣され上京、やはり共学塾で学んでいた。矢代は藩校進徳館の句読師であった。

桑名藩貢進生加太邦憲(明治法律学校講師)の回顧録によれば、当時大学南校は一ツ橋見附外にあり、入学後は五〜七円の学資金を藩から貰って勉強したという。舎監は井上毅、校長加藤弘之、教頭フルベッキで、フランス語はリブロール、ガロー、マイヨらが教えた。学資は一般に五円から一八円ぐらいまで藩の実力に応じさまざまであったが、身分不相応の大金のため、品行不良の輩も生んでいる。いずれも全国各地から集った若者ゆえ、国なまりはそのままで散髪や結髪、洋服、背裂羽織、丸腰、帯刀などさまざまで、「大学南校は小日本の観を呈」したという。英仏独の三カ国語のクラス編成で、貢進生は学力に応じ一五組に分けられ、初心者の一五級から優等生の一級に進むしくみで、英語で一級には小村寿太郎(飢肥藩)がおり、勉強で短期間で一五級から一級に進級した人物に三浦和夫(鳩山、真島藩)、杉浦重剛(膳所藩)らがいる。五年二月の天皇行幸に際し、貢進生を代表した優等生は古市公威、石本新六(陸軍大臣)の姫路藩貢進生であった。当初、学力不足や病氣、品行不良者も多く、四年九月に半数が除名されている。矢代操も肋膜炎で苦しみ、乱暴な切開手術のため「敏を欠く」結果になったが、幸い除名は免れた。

フランス語組正則一級の三〇名のうち一五名が転校し、明法寮に移るのは五年八月である。明法寮の学生は全員で二〇名、パリ代官人ブスケ、パリ大学教授ボアソナードにフランス法を学ぶ。ブスケは丁寧で、ボアソナードはテキストもなく、専門知識を縦横に駆使した講義であったため難解な授業であつたという。創立者三人はここで磯部四郎、杉村虎一を含め五人(大村藩貢進生)、立木頼三、矢代操らである。まさに明治法律学校は明法寮(司法省法学学校)の嫡流として誕生し、ボアソナードの弟子達の学校であつた。



司法省(創設当時)

証明したのは磯部四郎と熊野敏三であり、そのため廃校を免れている。

司法省法学学校の正則第一期卒業生は、途中補充者を含め二五名、このうち七人がパリ大学に留学、これを含む一七名が明治法律学校(明治大学)の講師となる。パリ留学生は井上正一、熊野敏三、磯部四郎、栗塚吾吾、木下広次(熊本藩貢進生)、初代京都帝大総長)、岸本辰雄、宮城浩蔵の七人、このほかの第一期生は加太邦憲、木下哲三郎、内藤直亮、井上操、岩野新平、龜山貞義、高木豊三、一瀬勇三郎(大村藩貢進生)、立木頼三、矢代操らである。まさに明治法律学校は明法寮(司法省法学学校)の嫡流として誕生し、ボアソナードの弟子達の学校であつた。

### 公演

☆文学部文学科演劇学専攻公演2003  
『くたばれハムレット』☆

文学部文学科演劇学専攻では、今年度専攻初の試みとして、「戯曲を読み解く」ことを中心に実際の舞台を作り上げることに取り組みます。多数の方々のご来場をお待ちします。

- ▼主催・製作=文学部文学科演劇学専攻 (主任教授:佐藤正紀先生)
- ▼日時=6月20日(金)・21日(土) 18時開場、18時30分開演
- ▼場所=和泉校舎第2校舎前特設野外劇場
- ▼料金=無料、ただし要整理券
- ▼問い合わせ=HPアドレス: <http://www27.tok2.com/home/actorsschool2000/>

### 演奏会

☆東京6大学応援団連盟吹奏楽部・チャリーディング部第29回合同演奏会☆

- ▼日時=6月28日(土) 17時30分開場、18時開演
- ▼会場=東京・江戸川区総合文化センター大ホール (JR線新小岩駅南口徒歩15分)
- ▼プログラム=Ⅰ部:シンフォニックステージ、Ⅱ部:ドリルステージ、Ⅲ部:ポップスステージ
- ▼チケット=前売り券400円、当日券500円
- ▼問い合わせ=☎ 03-3985-2877 (立教大学応援団・連盟本部)

# 明大ニュース

## 名誉教授

永年にわたり学内外で活躍され、明治大学の教育・研究の発展に尽力し、多大な功績を挙げられた8氏に、5月1日付で明治大学名誉教授の称号が贈られた。

- 今野礼二(こんの・れいじ)氏 理工学部、数学
- 仲川 勤(なかがわ・つとむ)氏 理工学部、高分子化学
- 西山榮枝(にしやま・さかえ)氏 理工学部、電気回路論
- 井上和衛(いのうえ・かずえ)氏 農学部、農村政策論
- 長岩 寛(ながいわ・ひろし)氏 経営学部、英語

## 受賞

- 森 章(もり・あきら)氏 商学部、管理会計論
- 高島緑雄(たかしま・ろくお)氏 文学部、日本史学
- 近藤正毅(こんどう・まさき)氏 理工学部、英語

## ☆堀江助教が

川端康成文学賞受賞☆

29回川端康成文学賞が発表され、理工学部の堀江敏幸助教の短編小説「スタンス・ドット」が選ばれた。

この賞は、故川端康成氏が残した業績を永く後世に伝えることを目的に1972年に設立された財団法人川端康成記念会の事業として、その年度に発表された最も優れた短編小説を表彰するもの。堀江助教が描く、過去を回顧しながら現代を見据え、ボーリングのピンが倒れて響く「音」をテーマにしたその描写が称賛された。

なお、堀江助教は、99年に「おらんぼん」で三島由紀夫賞、01年には「熊の敷石」で芥川賞を受賞している。理工学部では「フランス語」「総合文化ゼミナール」などの授業科目を担当している。

## ☆松瀬教授が

電気学会業績賞受賞☆

社団法人電気学会の第91回通常総会で、理工学部の松瀬貞規教授が電気学会業績賞を受賞した。同学会は、1888年に創設された学者・科学者で構成される会員数約3万人の学術法人である。この賞は、長年にわたり電気学の学術または技術の発展や電気学会の発展に貢献した個人に贈られ、学術上最高の賞とされる。

松瀬教授は、交流電動機可変速駆動技術の発展ならびに学会活動への貢献が高い評価を受けて今回の受賞となった。

## スポーツ

### ☆東京六大学野球春季リーグ戦

明大は勝ち点4で二位☆

東京六大学野球春季リーグ戦で明大は、98年春以来10シーズンぶりの優勝とリーグ通算10勝に向け、第2週・東大戦、第3週・慶大戦を連破してスタートを切った。

第5週・法大戦は、エース・一場(商3年)の好投と打線の爆発で連勝、勝ち点を3とした(1回戦2対1、2回戦2対2)。

第6週は首位で並ぶ早大戦。1回戦は頼みの一場が打ち込まれ、完封負けを喫した。2回戦は佐藤賢(政経4年)が投打にわたる活躍でリーグ戦初勝利し、早大に今季初黒星をつけた。3回戦は1点を争うシーソーゲーム。早大を上回る10安打を放ちながら逆転負け。勝ち点を落として自力優勝が消滅した(1回戦0対6、2回戦7対3、3回戦3対4)。

一敗すれば優勝の可能性が消える最終の立大1回戦は、一場が14奪三振1失点で完投勝ち。2回戦は原島(経営2年)が3安打3打点の活躍を見せ連勝した(1回戦3対1、2回戦3対2)。この結果、明大はリーグ通算99勝9勝3敗の勝ち点4で全日程を終えた。

最終週の早慶戦で慶大が2勝1敗の場合は、明早慶によるプレーオフが期待されたが、早大が連勝して、明大は二位となった。

☆スケート部アイスホッケー部門  
東京都体育協会から「体育優良団体表彰」を受ける☆  
東京・東伏見アリーナで行われた第52回関東大学アイスホッケー選手権決勝で、明大は法大を3対1で下し、8年ぶり21回目の優勝を果たした。最優秀選手に主将・飯村(商4年)が、最優秀新人に菊池(政経1年)が選ばれ、ベスト6のうち5人を明大が占めた。

また、5月18日には東京都体育協会から「体育優良団体表彰」を受賞した。この表彰は、組織的に体育活動を実施し、その活動が地域の体育スポーツ振興と健全な発展に寄与し、または地域社会や職場における社会体育の振興に貢献した団体を表彰するもの。アイスホッケー部門の昨年来の活躍と実績、創部80年近い歴史・伝統が評価された。

# 経営学部IBP スカラーシップアワード開催

4月21日、18時30分からリパティタワー23階の伊藤紫虹ホールで経営学部IBP(International Business Program)のスカラーシップアワードが開催された。

このIBPは、経営学部の学生が長期休暇を利用し海外の大学に1ヶ月程度短期留学をする制度で、2002年度より実施している。プログラム内容は通常の語学研修やホームステイのほか、プレゼンテーション能力の向上、ビジネストピックスの講義等も含まれており、「外国語で経営学を学べる」短期留学制度となっている。



2002年度は8月・9月にカナダのカナディアンカレッジ、アメリカのポートランドステーツユニバーシティで実施し48名が参加した。今回のスカラーシップアワードは2月・3月にカナディアンカレッジのプログラムに参加

した学生34名を対象に行われた。選考は「プログラム期間中に特に意欲的に学習した学生」を基準にカナディアンカレッジが行い、平井克彦経営学部長と樋沼布子カナディアンカレッジ日本事業所代表から経営学部3年の山田隆太郎君、市川高弘君の2名に奨学金(日本円約9万円)が授与された。

山田・市川両君は学んだ英語でスピーチを行い、留学前より成長した姿を見せていた。また当日は、参加した学生に現地受験したTOEICスコアが配布された。

## ☆清水教授が

STLE記念論文賞受賞☆

アメリカ・ニューヨークで開催されたSTLE第29回年次総会で、理工学部の清水茂夫教授が、ウェルバー・ダッチ記念論文賞に選ばれ、日本人として初めて受賞した。

この賞は、58年にSTLE(Society of Tribologists and Lubrication Engineers)の創設者を記念して創られた賞で、02年度のトライボロジー分野における最優秀論文に対して授与されるもの。

清水教授は、論文「転がり機械要素に対する疲れ限度の概念と寿命予測モデル」で、先進的な研究成果を取り入れ、新しい概念を提起したことが評価された。

清水教授は、理工学部で「機械要素」などの授業科目を担当している。

## Calendar

6 ~ 7 月

- 6月16日(月) 法科大学院適性試験募集要項配布開始
- 19日(木) 夏の厚生施設予約受付開始(～20日)
- 20日(金) 文学部文学科演劇学専攻公演2003(～21日)
- 21日(土) 法科大学院説明会(12:00～13:00)
- 28日(土) 留学生日本語スピーチコンテスト出場者受付締切
- 7月1日(火) 法科大学院適性試験受付開始(～7日)

